

東京下町 樹木探索

(春一番と黄色い花)



ハンノキの花

今日は2月16日月曜日。昨日は朝から雨混じりの風が強く、気象庁から「春一番」の発表がありました。春一番とは、立春から春分までの間に吹く平均風速8m/s以上の強い南風のこと。気温が急激に上昇するのが特徴ですが、午後からは雨も止み気温は23℃にまで達しました。

このメカニズムは日本海に発生する低気圧が支配的。それが太平洋側に移動してくると、今度は西高東低の典型的な冬型気圧配置となって、一気に寒さが戻ります。案の定、翌日は冬の寒さに逆戻り。東京都心の気温は5.4度にまで下がり、八王子では雪も降りました。

こんな中、元気に花を咲かせている木がハンノキ(榛の木)です。この木の花は風媒花(ふうばいか)、すなわち風で花粉を運ぶ仕組みのため鳥や虫の関心を引く必要が全くありません。このため、咲いていることすら気づかない極めて地味な花ですが、撒(ま)き散らす花粉は花粉症の主要な原因になっていて、存在感だけはしっかり主張しています。

花粉の代表格と云えばスギ花粉ですが、東京大手町での飛散確認は3日前の2月13日、とうとう[花粉シーズン](#)が始まりました。ところで、マスクをするとメガネが曇って困ります。この裏技はマスクの上部を二重に折り返すこと。息が上に抜けるルートを塞ぐための措置のようですが、効果があるのなら、最初からそのように作ってくれば良かったのにはと思います。

一方で、そろそろ蕾を開いてきたのはサンシュユの花、一週間もすれば満開になるだろうと思います。サンシュユを漢字で書けば「山茱萸」ですが、これを訓読みすれば「やまぐみ」となり、秋になるとグミのような赤い実が成ります。

同じ頃に咲き始めたのはヒイラギナンテン(柎南天)の黄色い花。これからはトサミズキやヒュウガミズキ、さらにレンギョウも咲き始める筈で、この時期はなぜか黄色の花が目立ちます。そう云えば、昆虫が認識できるとされる色の範囲は黄・緑・青と紫外線で、その中でも黄色は最も見やすく虫の好きな色。昆虫の少ないこの時期に、必死に気を引こうとしているたくましい生命力が窺(うかが)えます。



[サンシュユ\(山茱萸\)](#)



[ヒイラギナンテン\(柎南天\)](#)